

人間社会学部／社会福祉コース	職名	特任教授	氏名	細井 勇
----------------	----	------	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究分野は、社会事業史研究である。日本の近代化過程の特質とは何か、その中で社会福祉は如何に形成されてきたか、それを、近代日本におけるキリスト教の受容の問題と関係させて研究してきた。その成果そして、2009年に『石井十次と岡山孤児院—近代日本と慈善事業—』を著した。しかし、それは日本型福祉国家の形成史の全体像ではなかった。これまで、筑豊の生活保護史や筑豊のキリスト教史に目を向けてきた。筑豊という場から日本型福祉国家の形成史を問うという問題意識であって、その成果を今、細井勇、城島泰伸編『筑豊の生活保護とキリスト教—「制度」か「人間」かをめぐる運動史—』として刊行しようとしている。また、2021年度COC奨励研究の助成を得て「筑豊の子供を守る会」関係資料集成編集委員会編（代表細井勇）で『筑豊の子供を守る会』関係資料集成』全8巻を2022年度に刊行することができ、かつ東京と本学で記念シンポジウム（公開講座Ⅱ）も開催することができた。

2018年4月に開始した科研費研究「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究—日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に—」は2022年3月で一端終了となったが、新たな科研費研究を申請中であり、ソーシャルペダゴジーの国際研究と日本への導入の試みは今後も継続する。

なお、戦後、博多引揚基地を擁する福岡県は、引揚孤児の救済保護を全国レベルで担った。本年度から、そうした実態を解明すべく、県立公文書館の所蔵資料等への調査活動を共同で開始している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・ 細井勇「解説1：本資料集成の概要について」「筑豊の子供を守る会」関係資料集成編集委員会（代表細井勇）編『筑豊の子供を守る会』関係資料集成』全8巻、六花出版、2022年
- ・ 細井 勇「社会事業史研究の経緯と方向性」社会事業史学会創立50周年記念論文集刊行委員会編『戦後社会福祉の歴史研究と方法 —継承・展開・創造—（第1巻思想・海外）』近現代資料刊行会、2022年
- ・ 細井 勇「ソーシャルペダゴジー —その国際的動向と日本への導入の実践的意義を考える」宇佐美耕一、小谷眞男、後藤玲子、原島博編集代表『世界の社会福祉年鑑 2022』旬報社、2022年

<論文>

- ・ 細井勇「現象学的なキリスト教社会福祉研究の試み —学びの方法としての対話とリフレクション—」『キリスト教社会福祉学研究』55、4-15、2023年
- ・ 細井勇「フィリピンにおけるストリートチルドレン支援団体、カンルンガン・サ・エルマ —その設立の理念と活動について」（科研費研究基盤B「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究—日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に」（代表細井勇）成果報告書、53-69、2022年3月

- ・ 細井勇「特集“キリスト教神学と社会福祉”に寄せて」『キリスト教社会福祉学研究』54、4-7、2022年
- ・ 細井勇「社会事業史研究の“独自性”再考」『社会事業史研究』59、25-44、2021年
- ・ 細井勇「特集“連帯と協同の社会形成に向けて”の意図について—本学会成立の経緯を振り返ることを通いて—」『キリスト教社会福祉学研究』53、6-12、2021年
- ・ 細井勇「『地域づくりに向けた多宗教間連携を考える』の背景と意図」『キリスト教社会福祉学研究』52、4-8、2020年

②その他最近の業績

<書評>

- ・ 細井勇「書評：稲井智義『子ども福祉施設と教育思想の社会史 石井十次から富田象吉、高田慎吾へ』」『図書新聞』2023年3月発行予定
- ・ 細井勇「文献解題：西崎緑『ソーシャルワークはマイノリティをどう捉えてきたか—制度的人種差別とアメリカ社会福祉史—』」『キリスト教社会福祉学研究』53、2021年
- ・ 細井勇「救世軍人・山室軍平の思想と実践を日本の近代化の中に位置づける（書評：室田保夫『山室軍平』）」『図書新聞』3478号、2021年1月9日発行
- ・ 細井勇「書評：滝澤民夫『増野悦興研究 埋もれたキリスト者の生涯と思想』」『キリスト教社会福祉学研究』52、2020年

<その他>

- ・ 細井勇、鬼塚香、森茂起、伊藤篤、阪野学、三上邦彦『科研費研究（基盤B）「児童の代替的ケアをめぐる国際比較研究—日本、韓国、イギリス、ドイツを中心に」（代表細井勇）研究成果報告書』全69頁、2022年3月
- ・ 日本ソーシャルペダゴジー学会・科研費研究共催『第6回学術集会（2021年9月19日）報告書』編集発行、2022年3月
- ・ 細井勇「(シンポジウム)社会事業史研究の“独自性”再考」『社会事業史学会第48回大会報告要旨集』2020年5月、山口県立大学
- ・ 細井勇、伊藤篤、鬼塚香、稲葉美由紀、杉野寿子、三上邦彦、森茂起『(2019年度科研費報告書)イギリスにおける児童ケアとソーシャルペダゴジー—スコットランド及びロンドン訪問調査報告書』全44頁、2020年
- ・ 細井勇「日本のミューラー・石井十次、ドイツの児童福祉、そして筑豊で出会った人々」『福岡県立大学社会福祉学会第10回大会報告書』2020年
- ・ 細井勇「ソーシャルペダゴジーと児童福祉施設」『2019年度小舎制養育研究会総会・研修会第41回大分大会報告書』33-57、2020年
- ・ 細井勇「歴史から学ぶ社会的養護実践」『社会的養護の充実を求めて 設立10周年記念誌』日本児童養護実践学会、32-49、2020年
- ・ 細井勇「日本の社会的養護に求められる専門性としてのソーシャルペダゴジーの役割と意義について」『社会的養護の充実を求めて 設立10周年記念誌』日本児童養護実践学会、50-68、2020年

<学会報告等>

- ・ 細井勇、森茂起、鬼塚香、松本幸治、ビレモス・トリーネ「ソーシャルペダゴジー その国際的動向と日本への導入の実践的意義を考える」日本子ども虐待防止学会第 28 回学術集会福岡大会、公開シンポジウム、於福岡国際会議場、2023 年 12 月 10 日
- ・ 細井勇「ソーシャルペダゴジーの基本概念」日本ソーシャルペダゴジー学会主催ミニ講座（オンライン）2021 年 5 月 9 日

③過去の主要業績

- ・ 細井勇・菊池義昭編・解説『岡山孤児院関係資料集成』全 3 巻、不二出版、2009 年
- ・ 細井勇『石井十次と岡山孤児院—近代日本と慈善事業—』ミネルヴァ書房、2009 年
- ・ 田川地区社会福祉研究会・細井勇監修『福岡県田川福祉事務所四十年史』、1996 年
共著『山室軍平の研究』同朋社、1991 年

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本基督教社会福祉学会（学会誌編集委員）、社会事業史学会（理事）、日本ソーシャルペダゴジー学会（理事）、同志社大学社会福祉学会、日本子ども虐待防止学会、日本児童養護実践学会、福岡県立大学社会福祉学会（事務局長）

6. 担当授業科目

（学部） 社会福祉学概論 I ・ 2 単位 ・ 1 年前期

（大学院）社会福祉研究 ・ 2 単位 ・ 前期、社会福祉演習 ・ 1 単位 ・ 後期

7. 社会貢献活動

児童養護施設栄光園 評議員

8. 学外講義・講演

細井勇「ソーシャルペダゴグは何をするのか 関係・構造・変化」法人型ファミリーホーム研究会、於日本児童育成園（岐阜市）、2023 年 2 月 21 日

細井勇「筑豊炭鉱の閉山炭住と守る会運動」「筑豊の子供を守る会」関係資料集成出版記念シンポジウム：1960～70 年の若者は、何を考え、行動したか —歴史を自分たちの手で創造する、於国際基督教大学、2023 年 1 月 9 日

公開講座Ⅱ「筑豊の炭鉱閉山期『筑豊の子供を守る会』の活動を振り返る」（司会進行）2023 年 2 月 11 日

9. 附属研究所の活動等